

備中高松城下町かわら版

http://www.takano.okayama-c.ed.jp/

第 19 号

平成18年3月23日

発行元
岡山県立
高松農業高校
tel
086-287-3711
fax
086-287-3713



3月1日(水)第108回卒業証書授与式が挙行された。式の最後には、卒業生186名、在校生395名、総勢581名の校歌が体育館に響き渡った。

【朝礼台】

三月一日に行われた卒業式は本当に素晴らしい卒業式で、来賓の皆さん方からお褒めの言葉を頂きました。立派な卒業式ができたのは、三年生の態度が素晴らしいことが勿論ですが、一・二年生の皆さんが立派な態度で臨んでくれたことも大きかったと思います。

何かにつけてリードしてくれた三年生がいなくなると、何となく寂しい気がします。皆さんも同じ気持ちだと思いますが、皆さんが三年生の後を引き継いで立派にやってくれるものと期待しています。皆さんは三年生から沢山のことを学んだと思います。先輩が築いてくれた伝統を引き継ぐために、また、新たな学年に邁進する重要な節目に当たって、この一年間を振り返って、自分はどうかあったかを考えてほしいと思います。勉強のこと、部活動のこと、友達との関わり、生活のこと、いろいろあると思いますが、しっかりと「自分はどんな点で成長し、進歩したか、反省すべきことは何か」をしつかりと自分で確認することが大切です。そして、新しい学年に向けて「自分はどうかあったら良いのか」を考えて欲しいと思います。決して長くはない春休みですが、病氣、怪我、交通事故等、十分注意をして、充実して過ごしてください。(校長より)

地域の方々に、第107回卒業生からのメッセージ(3年間のお礼に代えて)を御紹介します。(答辞より)

電車をつつ朝の駅で、野の草に小さな花を、見つけました。

朝日の光も強さを増し、生命の鼓動を感じるおだやかな春の、この佳き日に、私たち一八六名は、岡山県立高松農業高等学校を卒業できることに大きな喜びを感じています。

入学して間もないころは、校舎までの道のりを、長く、感じていました。緊張し、教室で息をひそめて座っていたのも束の間、すぐに仲良く、笑い声の飛び交うクラスになりました。あれから、三年。この晴れやかな式典に、まだ「別れ」の実感もないままに臨んでいる、私たちの心に数々の思い出が浮かんできます。

【中略】

やっぱり、向いていないのかも知れない。もう、やめようか。一年生のとき、部内での成績は最低で、何層もそう思うことがありました。繰り返される自問自答の中で、ある時、気がつきました。「できない」という枠を作るのは、私だ。そして、その枠を壊すことができるのも、他の誰でもなく、私だ、ということ。

「できない理由」を探して、うだうだするよりも、私ができることを、まっすぐに挑んでいくことの方が、気持ちがいい、ということ。枠が壊れると、新しい私が顔をあげる。その点において、私たちは「自由」だ。どんなふうにも、私たちは変化してゆけるだろう。

【中略】

そろそろ、卒業の時が近づいてまいりました。私達卒業生が今、手にしているものは、これから出会う無限の選択肢の中で、「新しい自分」に出会うために最も難しく、そして、気持ちのよい選択肢を選ぶことが出来る、「勇気」と「知恵」です。

今後、いかなる困難が訪れようとも、最善の道を選び、豊かな人間に成長してゆくことをここに誓い、最後になりましたが、皆様の健康と、高松農業高校のさらなる発展をお祈りして、答辞といたします。

平成十八年三月一日

卒業生代表 畜産科学科 藤田 静香

春の全国高校大会に中国地区大会を勝ち抜いた2つの部が団体・個人で出場します。健闘を祈ります。

○レスリング

(26) 29日・新潟県・新潟市体育館

団体▽選手 堀田晃平(畜産科学科2年)、吉永太一(畜産科学科1年)、津崎勇輝(農業経済科2年)、高橋啓(農業経済科1年)、青井政樹(生物工学科2年)、田中健己(農業土木科1年)、佐藤裕和(農業経済科2年)、小田原峻(生物工学科1年)、土山正幸(畜産科学科2年)、西山裕祐(農業経済科1年)、北野輝(農業土木科2年)、原直太(農業経済科1年)、時信光一(農業土木科2年)、横山幸和(農業経済科1年)○印は団体・個人を兼ねる。

○ライフル射撃

(25) 27日・熊本県総合射撃場

男子▽選手 中嶋一樹(生物工学科2年)▽選手 浅野鈴子・岸本愛美(園芸科学科2年)

【放課後】

頑張れ 高農

国説標準高農

平成十七年度版



本校では2つの機関誌を毎年発行しています。

国説標準高農(すてっぴようじゅんたかのう)

(右)は生徒会役員の手による生徒会機関誌です。巻末の「高農で一番好きなところ」などは読み応えがあります。

国説(やくしん)(左)は、農業クラブの1年間の活動を記録しています。申し訳ありませんが2誌とも非売品です。

【農場】本校卒業生の土師真代さん(平成17年・3月畜産科学科卒業・中国路農大1年生)が第16回ヤンマー学生懸賞作文で銅賞に輝いたという報らせが届きました。彼女は高校時代に毎日農場で優秀賞も獲得しています。卒業生の活躍は一段とうれしいものです。

これらの写真は3月15日に本校農場・普通教科・事務室の教職員約40人で行なった平山果樹園・銅科園(佐古田古墳)の草刈整備風景です。左上の写真は平山果樹園、左下および下の写真は佐古田古墳から望んだ大層方向と傾斜地で草を運ぶ本校職員。



【ホームルーム】宮沢賢治の作品の中に「生徒諸君に寄せる」という詩がある。花巻農学校(現花巻農高)の教師として教壇に立っていた賢治が退職する時に生徒を前に贈った言葉だ。「この四力年が私にどんなに楽しかったか。私は毎日、鳥のように教室でうたつてくらし。誓って言うが私はこの仕事で疲れをおぼえたことはない。中略。衝動のようになさる行なわれるすべての農業労働を、冷たく透明な解析によって、その藍色の影といっしょに舞踏の範囲へ高めよ。後略」。賢治の時代から一世に近づく経つが今の農業高校にも十分通じるものがある。

さて、いよいよ桜の季節を迎えた。別れと出会いの季節でもある。4月11日、一〇八回目の入学式で2000名の新入生を迎える。そして、また、本校もこの時のように毎日、十五の教室に六十名の教師が授業・実習で教壇に立つ。